

福祉サービス事業 フリーダム創生
生活介護事業（シオンの家）2019年事業計画書

従業員数

管理者（兼務）1名 サービス管理責任者 1名

生活支援員 16名（内非常勤 3名）看護職員 1名（非常勤）医師 1名（東永）

利用者数（定員 25名）

実利用者 身体障害者 18名（内車いす 18名）知的障害者 8名 合計 26名

【運営目標】

利用者が自立して日常生活、及び社会生活を過ごすために、排泄及び食事の介助、生産活動及び創作活動の提供を行う。また、地域との関係を重視し、市町村、他の障害者事業所、相談支援事業所、医療機関、学校などの機関との連携を図ります
障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準に定める内容のほか、その他関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする（運営規定より）

1. 利用者の食事、排泄などの生活に必要な介護を第一とし、事業所生活でストレスなく生活が出来るよう支援します。
2. 障害に関係なく、一人一人の個性を生かし、働いて収入を得る喜びを持ってもらう
3. 身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待を意識し、お互いに声を掛け合いながら、予防につなげる
4. 利用者が安心して作業ができるよう、環境を整え、事故防止に努めます。

【サービス（支援）内容】

サービス担当者会議を行い、一人一人の利用者に対しての個別支援計画を立て、その内容に基づき職員、家族、他利用機関と連携を取りながら支援していきます。

主な内容として、身体介護（排泄、食事、移乗）、生産活動（製菓商品及び仕入れ商品の販売）、創作活動（紙ちぎり、絵画）、生活相談（カウンセリングルームの設置）、健康管理、（バイタル、月一回の医師の診察、看護師の様子観察）、その他必要となる介護、支援、助言を行います。

【支援の効果と課題】

1. 利用者の食事、排泄などの生活に最も必要な介護を第一優先とし、事業所生活でストレスなく生活が出来るよう支援します。
効果: トイレなどの介護をスムーズに行う事で、事業所生活の不安が軽減され作業にも集中できる
課題: 別の業務に意識が向き、優先順位が逆転する可能性があるため、常に利用者の声を聞き、介護ができる状態を保つ必要がある。
2. 障害に関係なく、一人一人の個性を生かし、働いて収入を得る喜びを持ってもらう
効果: 働くことで利用者の可能性を広げていくとともに、自立に向けての意識が芽生えます
課題: 本人が出来ること以上の目標を立ててしまうことが考えられるので、利用者との密なコミュニケーションが必要とされる
3. 身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待を意識し、お互いに声を掛け合いながら、予防につなげる
効果: 心身ともに安心した作業ができ、生活向上につながる
課題: 自分では気づかないうちに利用者への虐待につながる可能性があるため、職員間で声を掛け合いながら、未然に防ぐ必要がある
4. 利用者が安心して作業ができるよう、環境を整え、事故防止に努めます。
効果: 利用者及び職員の怪我の防止につながります
課題: 日数が経つと、注意力が散漫になり、事故への意識が低下する恐れがあります。